

## 事業活動（研修会・講習会等）報告書－ 1

1	活動名称	令和 4 年度 普及講習会 ※参加者：18 名
2	実施日時	令和 4 年 5 月 31 日（火） 9 時 30 分～11 時 30 分（120 分）（オンライン方式）
3	担当幹事	事務局
4-1	実施内容・名称	(1) 9:30～9:35 はじめに (2) 10:05～12:00 「コンクリート診断士試験における過去問題（択一）の解説他」
4-2	講義の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリート診断技術（試験の傾向）</li> <li>・択一式問題（2020 年度および過去の類似問題）の解答・解説</li> </ul>
4-3	講師（氏名・所属会社名）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本データサービス(株) 設計診断部部長 木村 博史 氏</li> </ul>

## 事業活動（研修会・講習会等）実施報告書－2

5-1	実施状況写真	
<p>「コンクリート 診断技術と診断 士試験過去問題 の解答・解説」</p>		 <p>The screenshot shows a Zoom meeting interface. At the top, there is a grid of 15 video thumbnails of participants. Below the grid, names are listed: 坂尻 尊彦, 斎藤 秀樹, 黒島 寛之, 菊地康宏, 西部克人, and 新井 宏規. The main part of the screen displays a PowerPoint slide titled "試験の傾向" (Exam Trends). The slide content is as follows:</p> <p><b>● 試験の傾向</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 四択択一式問題の傾向             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 単純な文章題だけでなく、写真や図表を用いた問題が6割</li> <li>✓ 写真や図表を含めて問題を読み解く必要あり</li> </ul> </li> <li>➡ <b>知識だけでなく経験や判断力も問われる</b></li> <li>● 文章のみの問題（2021年度：16題/40題）</li> </ul> <p>&lt; 問題6 &gt;</p> <p>アルカリシリカ反応によるモルタルの膨張に関する次の(1)～(4)の記述のうち、適当なものはどれか。なおここでは、反応性を有する骨材を用い、JIS A 1146（骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(モルタルバー法)）に準拠して作製したモルタル供試体を26週間貯蔵した場合について問うものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 供試体の貯蔵環境を温度40℃とすると、20℃の場合より、膨張率は大きくなる。</li> <li>(2) 供試体の貯蔵環境を相対湿度60%とすると、95%の場合より、膨張率は大きくなる。</li> <li>(3) 反応性を有する骨材の量が多いほど、膨張率は大きくなる。</li> <li>(4) 普通ポルトランドセメントの15%をフライアッシュで置換すると、置換しない場合より、膨張率は大きくなる。</li> </ol>